

# 第6部

# EVRIからの提案

## 6-1 新たな「日常」と「授業」の課題

- 遠隔授業とは？
- 3つの「フェーズ」とは？
- 各フェーズにおける学校が抱える課題とは？
- 3つのフェーズに対応した授業・学び支援とは？

6-2

**フェーズ0.x** の教育の論点(大坂)

「非オンライン」環境で、双方向的な学びをどうやって実現するか？

6-3

**フェーズ1.x** の教育の論点(三好)

既存のオンライン教材を使いつつ、授業をいかに展開するか？

6-4

**フェーズ2.x** の教育の論点(吉田・草原)

多様なツールを用いて、深い学びの伴う授業へと発展させるには？

# そもそも、 遠隔授業 とは？

- 授業の一部または全部の時間について、教員と子どもが直接対面せずに、インターネット等を使って遠隔で教授・学習を行うこと。
- リアルタイム（同期）型とオンデマンド（非同期）型があります。子どもと同じ時間に（real-time）授業を行うか、子どもが自分の好きな時間に（on-demand）学習するかの違いです。

※詳細は、[文部科学省による告示](#)をご確認ください。



# 遠隔授業の形態とは？

- 大きく分けて以下の1,2のタイプがあります。
- 3のような形態も、対面授業と同等の双方向性がある場合において、認められるとされています。

1. 同時双方向型（同期・リアルタイム型）  
…ライブ配信で、直接子どもとやりとりする
2. オンデマンド型（非同期・オンデマンド型）  
…ウェブ上にアップされたコンテンツを視聴する
3. 教科書・教材配布型（非同期・オンデマンド型）  
…いわゆる「赤ペン先生」方式でのやり取り

オンライン環境が必要

オンライン環境がなくても実施可能



同時双方向型



オンデマンド型



教科書・教材配布型

# 質問

皆さんが現在おかれている  
オンライン教育の状況は？

以下の5点について、学校や子どもたちの状況を、「バッチリ!」「まあまあ」「まだまだ…」の3段階で評価してみてください。

1. 自宅や学校に高速・大容量のインターネット通信環境が整備されており、いつでも・誰でも無制限のインターネット通信が利用できる
2. PCやタブレット端末などのICT機器が全ての教員と子どもに配布されており、学校や家庭でそれを活用できる環境が整備されている
3. 教育活動においてICT機器やインターネットのコンテンツの利活用を普段から進めており、教員も子どもも操作やアクセスに習熟している
4. 学校がGoogle ClassroomやClassiといった教育プラットフォームと契約しており、資料の提供や子どもへの連絡、学習課題の提出やフィードバックなどをオンライン上で実施できる
5. ICT機器や教育プラットフォームを活用したオンライン教育をすでに部分的にでも実施している、あるいは実施に向けた研修が繰り返し行われている

以下の5点について、学校や子どもたちの状況を、「バッチリ!」「まあまあ」「まだまだ…」の3段階で評価してみてください。

1. 自宅や学校に高速・大容量のインターネット通信環境が整備されており、いつでも・誰でも無制限のインターネット通信が利用できる
2. PCやタブレット端末などのICT機器が全ての教員と子どもに配布されており、学校や家庭でそれを活用できる環境が整備されている
3. 教育活動においてICT機器やインターネットのコンテンツの利活用を普段から進めており、教員も子どもも操作やアクセスに習熟している
4. 学校がGoogle ClassroomやClassiといった教育プラットフォームと契約しており、資料の提供や子どもへの連絡、学習課題の提出やフィードバックなどをオンライン上で実施できる
5. ICT機器や教育プラットフォームを活用したオンライン教育をすでに部分的にでも実施している、あるいは実施に向けた研修が繰り返し行われている

どれも「バッチリ!」  
だという方は・・・

フェーズ  
2.x

- すぐにも全面オンライン教育に移行できるインフラ環境
- その中で、どうしたらより良い授業を作るか?を模索したい



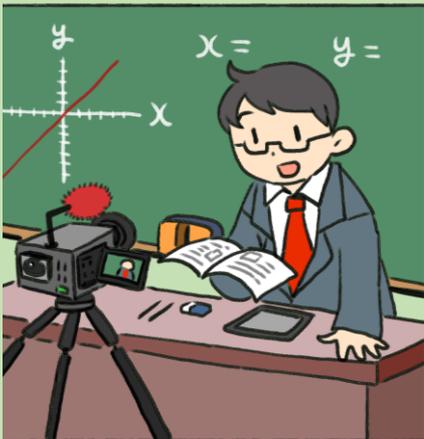
以下の5点について、学校や子どもたちの状況を、「バッチリ!」「まあまあ」「まだまだ…」の3段階で評価してみてください。

1. 自宅や学校に高速・大容量のインターネット通信環境が整備されており、いつでも・誰でも無制限のインターネット通信が利用できる
2. PCやタブレット端末などのICT機器が全ての教員と子どもに配布されており、学校や家庭でそれを活用できる環境が整備されている
3. 教育活動においてICT機器やインターネットのコンテンツの利活用を普段から進めており、教員も子どもも操作やアクセスに習熟している
4. 学校がGoogle ClassroomやClassiといった教育プラットフォームと契約しており、資料の提供や子どもへの連絡、学習課題の提出やフィードバックなどをオンライン上で実施できる
5. ICT機器や教育プラットフォームを活用したオンライン教育をすでに部分的にでも実施している、あるいは実施に向けた研修が繰り返し行われている

「まあまあ」が多いかなという方は・・・

フェーズ1.x

- オンライン教育ができる環境はあるけど、やり方がわからない
- まずは、教員も子どもも無理なくできるオンライン教育を考えたい



以下の5点について、学校や子どもたちの状況を、「バッチリ!」「まあまあ」「まだまだ…」の3段階で評価してみてください。

1. 自宅や学校に高速・大容量のインターネット通信環境が整備されており、いつでも・誰でも無制限のインターネット通信が利用できる
2. PCやタブレット端末などのICT機器が全ての教員と子どもに配布されており、学校や家庭でそれを活用できる環境が整備されている
3. 教育活動においてICT機器やインターネットのコンテンツの利活用を普段から進めており、教員も子どもも操作やアクセスに習熟している
4. 学校がGoogle ClassroomやClassiといった教育プラットフォームと契約しており、資料の提供や子どもへの連絡、学習課題の提出やフィードバックなどをオンライン上で実施できる
5. ICT機器や教育プラットフォームを活用したオンライン教育をすでに部分的にでも実施している、あるいは実施に向けた研修が繰り返し行われている

「まだまだ…」が多いという方は…

フェーズ  
0.x

- インフラやノウハウが整っておらず
  - オンライン教育は実施不可能
- 赤ペン先生でいかに子どもの学習機会を補償できるかを考えたい



1. 高速インターネット通信が整備された環境
2. ICT機器が配布され、活用できる環境
3. ICT機器操作やWebに習熟した環境
4. 教育プラットフォームが提供された環境
5. (オンライン教育の実施経験の蓄積)



- 最低でも**すべての教職員(学校)と子ども(家庭)**に1~4の環境が保証されていなければ、オンライン教育(フェーズ1.x~)は実施できません。
- いくら先生方の「熱意」があっても、先生一人ひとりの機材やノウハウが整っていても、「とり残される人」が生じるやり方は採用できません。

教育実践において一切のICT機器・ネット環境を活用できない状態

※この状態の学校はない(はず...)

**フェーズ0.0**

一部の教職員・子どもしかICT機器・ネット環境が利用できない状態

**フェーズ0.x**

「赤ペン先生」方式  
部分的なWeb利用

全員にICT機器・ネット環境が保障されてはいるが活用できない状態

**フェーズ1.x**

教材動画配信  
資料のWeb共有  
掲示板の活用

ICT機器・ネット環境を活用した教育を実施できる状態

**フェーズ2.x**

同時双方向授業  
グループ学習  
授業録画の参照  
オンライン上で課題  
配信・フィードバック



## 地震情報

TBS スcoop投稿

注目キーワード  
(クリックして記事一覧へ)

新型コロナウイルス 北朝鮮

令和のサクラ

ニュース検索

検索

過去のニュース



「(コロナ前の) 世界に戻ることは難しい」

前提

一時的な「繋ぎ」や「補習」ではない  
遠隔「授業」のあり方とは？

# オンライン授業の主な形態

リアルタイム (対面): 従来の授業



リアルタイム (対面+オンライン):  
: 教室+Web会議システム等で授業



リアルタイム (オンライン):  
: Web会議システム等で授業



オンデマンド (オンライン):  
: 学習システム等で学生が各自学習



3

<https://note.com/nakazonolab/n/n45d257b2b3db>より引用。

現在の状況が続く場合は、下の2つしか実施できません!

# 「新しい日常」における問題状況

## 人と人の関係性が作りにくい

- ・教師と子ども
- ・子どもと子ども
- ・保護者・地域と子ども

## 即時対応がしにくい

- ・つまづきがわかりにくい, 深められにくい

→ いかに遠隔で彼らの関係を深め、  
充実した授業を行うことができるか？

# これからの支援の展開例

## フェーズ0.x

「非オンライン」環境で、双方向的な学びをどうやって実現するか？  
→「学習プリント」と「教科通信」

## フェーズ1.x

既存のオンライン教材を使いつつ、授業をいかに展開するか？  
→NHK for schoolの活用

## フェーズ2.x

多様なツールを用いて、深い学びの伴う授業へと発展させるには？

※他にも多数あると思います。ぜひお聞かせください。